

6. 大事な自然の成長力

“速効”求めず一貫性を

前項に、「医師の施す治療法が少しも効果を現さなくて、逆に、放っておかれた障害児のほうが症状が良くなっ

た」という事実から、ドーマン博士が“本当の治療法”を発見した、というお話を紹介しました。

その発見とは、「歩くことの出来ない障害児を歩けるようにするのに、歩く訓練をするよりも、這うことのほうが有効だ」ということでした。歩く能力を養うのに全く無関係と思われる“這う”ことが、歩く訓練よりも効果があるという事実、これは私たちに重要な問題を投げかけていると思います。

歩く能力を付けるには“歩く訓練”が最も有効な道理です。けれども、どんなに有効な方法でも短時間の実践では効果が現れない、ということをお話は私たちに教えてくれています。

反対に、歩く能力を付けるのに大して効果があるとも思えない“這う”ことが、毎日毎日長時間やっているために、長い間には驚くような

すばらしい結果をもたらす、ということをお話してくれます。

家庭教育においても、「親が教育熱心で、子供のためにいろいろな配慮をしているのにその子が悪い子になり、その反対に、教育に全く無関心な親の子が立派な子供に育った」という例が、この世の中には決して少なくありません。

このような事実にくいつか接すると、「親がわが子を教育しようなどと思わないのが良い。放ったらかしておいた方が良い」と思いたくなります。しかし、それは短絡的思考というものです。

親は、教育に大層熱心なように見える人でも、多くは思い付きの行当りばったりで一貫性がなく、したがって、長期に亘る教育的配慮に欠けていることが多いものです。だから、熱心のようにも教育効果が

コラム

部首 臣

目を大きく見開いて“見張る”こと。臣下たる者の任務を表したものの。

【臨】 人が品物に近づいて“よく品定めする”のが本義。人と臣と品との会意形声字。今“その場に出向く”意味に使う。

現れないわけです。

教育効果が現れないだけならまだしも、その反対に子供を悪くしてしまうというのはどうしたことでしょうか。それは子供がだれでも内に秘めている自然なる成長力を無視して、“苗を引張る”ような行為をし、速効を求めるからです。

では、教育に無関心な親の子が立派になったということはどういうわけでしょうか。それは、無関心そのものが子供を立派にした原因ではなくて、無関心だったから“苗を引張る”ようなことをしなかったこと。それで、そのために子供の自然なる成長力が十分に発揮され、また、環境がたまたま教育的に整えられていたので立派に育ったのだと思います。

ちょうど畑の作物が、肥えた土の中で、日光と雨とに恵まれさえすれば、手入れを全くしなくても、立派な作物になるのと同じことです。しかし、良い手入れをするなら、もっと立派な作物になるはずですが、わが子にとって、無関心や放ったらかしが一番良いことであるはずはありません。たとえ良かったとしても、それは親として恥ずかしいことです。

コラム

部首 甘

の中に“うまい”物を含んでいること。“あまい”こと。音は、“に物を含む”の含(カン)。

【柑】 “甘い実のなる木”という意味の会意形声字。“みかん”のこと。昔は単に、“かん”または“柑子(こうじ)”と言った。

【旨】 ヒと甘の会意形声字。人が甘い物を にして“うまい”と思うことを表した。

【指】 “うまい物をちよいとつまむ”ゆびを表した。

【脂】 “旨い肉”という意味。“あぶらぎった肉”の意味から転じて“あぶら”の意味になった。「油」が液状であるのに対し、「脂」は固形状のあぶらを言う。